



# 災害に強いまちづくり

## 市民からの提言

### 災害に強いまちづくりに 市民提言

このたびの震災を貴重な教訓とし、「災害に強いまち・明石」の実現をめざした計画づくりを進めていくうえで、できるだけ多くのおみなさんの意見を反映させ、「市民のおみなさんとともに考え、進める」災害に強いまちづくりに努めるために提言募集を実施しました。募集期間は6月1日から30日までで、応募状況は、26歳から78歳までの60人と3団体から162項目にわたる提言が寄せられました。応募者は建築や医療・保健の専門家をはじめ、勤労者、主婦など様々で、市外からの応募もありました。

提言の内容を項目別にみると、主なものは次のとおりです。

- ①断水に際しての給水場所情報や被害情報などの情報不足から来る不安や、「阪神・淡路大震災」という名称が示すように被害を受けながら明石のことが報道されず、自分たちの被災状況を理解してもらえなかったらだち、不満を踏まえた情報提供のあり方への提言が24項目
- ②今までの「災害のないまち・明石」から「災害に強いまち・明石」をめざして、緊急時に、行政任せでなく各個人でできることは行えるよう、災害時の行動マニュアル化、防災教育の必要性を説く、防災意識の啓発高揚に関する提言が16項目
- ③公園の確保や緊急自動車等の進入路確保など防災空間としての整備に関する

提言が12項目

- ④このたびの震災で大きな役割を果たしたボランティアの活用に関する提言が11項目
- ⑤コミュニティーの発展・充実、地域の助け合いなどに関する提言が10項目
- ⑥建物の倒壊防止策などの建物対策に関する提言が10項目
- ⑦井戸水の活用をはじめ水の確保に関する提言が9項目

いずれの提言も、被災経験者として、また、ボランティア実践者や専門家の立場としての貴重な意見でした。



## (提言例の要旨)

- 「水や食料はどこで調達できるかなど情報を確実に伝える手段を」/主婦(28)ほか
- 「情報手段の一つとして、アマチュア無線家の活用を」/無職(65)
- 「災害時にはこうすべきというマニュアルを作成し、PRする」/会社員(28)
- 「わが家わが街は自らの手で守るという自主防災組織の理念、相互扶助精神を育むため、小学校低学年から防災授業を組み入れていく」/公務員(34)
- 「公園、街路樹の防災面からの再検討を加え、火災予防のための緑の回廊帯を造る」/会社役員(74)
- 「消防車、救急自動車がいいつでも活動可能のように、道路を整備するとともに不法駐車を許さない」/無職(57)
- 「市の災害救助態勢の中に、ボランティアの応援態勢も組み入れ、ボランティアを大いに活用すべき。そのためには、ボランティア情報のデータベース化が不可欠=データベース化の見本も添えての提言」/会社役員(60)
- 「住民集会所を建設し、災害時の活動拠点とし、平常時はコミュニケーションの場として活用」/無職(61)
- 「災害時を想定した社会弱者対策など、災害に強いまちづくりは、行政と市民が一体となった連携が不可欠」/自由業(64)
- 「一定期間経過した建物(例えば、建築後10年、20年)を対象に市の専門家による家屋の耐震、火災の巡回点検等の実施」/無職(71)
- 「緊急時、災害時の助け合い姉妹都市提携を。普段からの交流やサミット会議の開催など、きめ細かい要望が届きやすくする」/ボランティア経験者(55)
- 「目の不自由な人に対するテープによる朗読サービスは、パソコンによるものに比べ、即応性、経費、労力で劣る。パソコンのCD-ROMで情報編集し、情報提供する」/教師&朗読ボランティア(55)
- 「身近な生活関連情報が入ってこなかったことを教訓に、明石市にFM局の設置を=具体的な提案」/会社員(32)
- 「災害時に海上ルートが使えるよう海上利用施設の整備充実を」/会社員(62)
- 「運行許可を待たずにできる緊急時の運行態勢づくりを」/無職(64)





# 災害に強いまちづくり

## 基本目標と基本方針

### 安心、安全、助け合いを 基本にまちづくり

明石は、海・子午線・明石原人・源氏物語など、豊かな自然といにしへのロマンに生まれ、東播磨の中核都市として発展してきた都市です。そして21世紀を展望したまちづくりの指針である「第3次長期総合計画」の推進により、美しい風土のなかで人と人とのふれあいを大切にしながら、快適で活力のある「海峡公園都市」づくりを進めてきました。

#### (1) 甚大な被害をもたらした兵庫県南部地震

日本で初めての大都市直下型地震は、阪神間を中心に未曾有の被害をもたらし、震源地に直近の本市も甚大な被害を受けましたが、これを契機として、「快適で安全な都市で、安心してゆとりある生活を送りたい」という市民の願いは切実なものがあります。

本市のこれからのまちづくりは、一日も早い「明石の復旧」に総力をあげて取り組むとともに、このたびの震災を貴重な教訓に、震災後のまちかどや避難所でお互いに助け合った市民の心を大切な財産として、「災害に強い都市」の実現という新たな課題に取り組んでいかなければなりません。

#### (2) 災害に強いまちづくり

このたび本市では、地震をはじめ火災や風水害などあらゆる災害において、被害を最小限にとどめ都市としての機能を確保できる「災害に強い都市」実現の指針となる「災害に強いまちづくり計画」を策定しました。「災害に強いまちづくり計画」は、「第3次長期総合計画」を防災面において補強、補完するものとして、防災都市基盤の整備や防災コミュニティづくりの施策等を取りまとめたもので、「第3次長期総合計画」と「災害に強いまちづくり計画」との推進により、新世紀の都市にふさわしい安全で快適な「海峡公園都市・明石」の実現を図ろうとするものです。

#### (3) 「災害に強いまちづくり計画」

震災の教訓をいかし、市民・事業者・行政の連携のもと、自然の恩恵と厳しさとの共生を図りながら、人の交流を深めるとともに、ゆとりのあるまちづくりを進め、より安全で快適な「21世紀都市・明石」の実現をめざします。

そのために、次の基本目標と基本方針を掲げます。

### 基本目標

#### 「安心を生みだすまちづくり」

消防・救急態勢の充実はもちろんのこと、地域福祉の推進、保健・医療の充実を図るなど、市民一人ひとりが「安心」して暮らすことのできるまちづくりを進めます。

#### 「安全を支えるまちづくり」

このたびのような災害においても、人命を守り、被害を最小限にし、都市としての機能を確保することのできる「安全」な都市基盤の整備を進めます。

#### 「助け合いを育むまちづくり」

コミュニティづくりを促進し、ふれあいとぬくもりのあるまちを広げ、そして災害時には人と人がお互いに「助け合う」まちづくりを進めます。



災害に強いまちづくり計画ネットワーク図



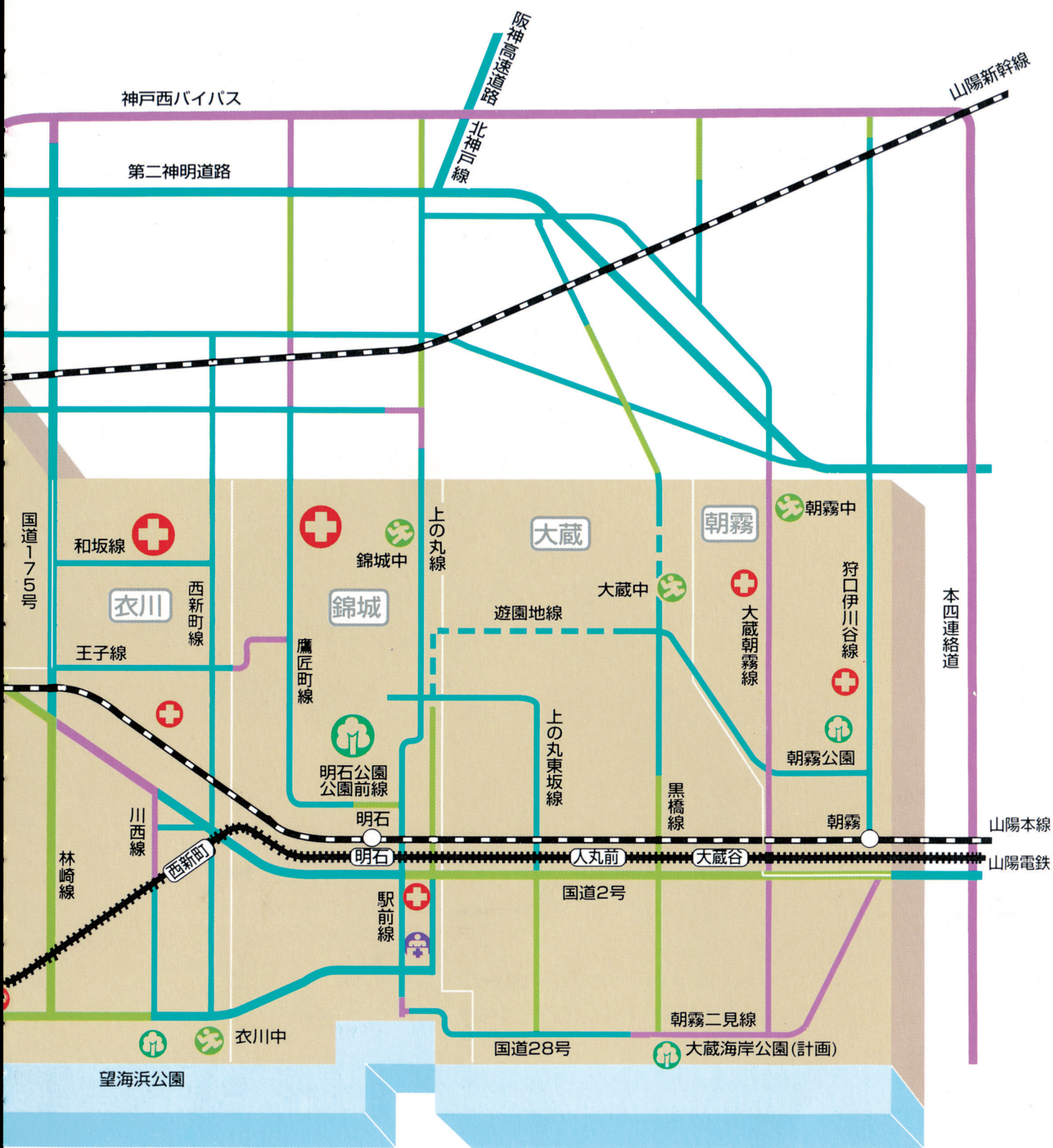
# 4つの重点施策

## 1 防災拠点の整備

コミセン及び公園等を活用して、平常時においては、防災についての市民の学習の場や自主防災組織の活動の場となるとともに、災害発生時において市民が自立した生活を送れるよう、必要な情報の提供、飲料水や食糧など救援物資の提供を行う「防災拠点」の整備を図ります。

## 2 防災コミュニティの形成

自治会、婦人会をはじめとする住民組織の活動を支援し、コミュニティづくりをさらに促進するとともに、「自分たちの町は自分たちで守る」という意識の高揚や、地域の実情に応じた自主的な防災組織の役立を促進し、地域の防災力の向上を図ります。



### 3 防災幹線道路網の整備

災害時には安全な避難路となり、また、緊急支援物資の輸送、救急・消防活動等の迅速かつ円滑な実施を確保するため、東西及び南北方向の都市計画道路の重点的な整備を進め、市内格子状の防災幹線道路網の形成を図る。

### 4 保健・医療・福祉の充実

基幹病院の市民病院等と市内拠点病院のネットワーク化により、災害時救急医療態勢の確立を図ります。また、地区保健福祉センターや在宅介護支援センターなどの整備とネットワーク化を進めるとともに、ボランティアセンターの充実等、ボランティア活動の振興に努めます。